

6月19日(月) 江陽中学校

一地域の宝ものマップづくり

1年生～3年生の24名が参加し、未来に残したい地域の宝ものを出し合い、魅力を高めていくために自分たち一人ひとりができることを考えました。



「地域(まち)の宝ものって何だろう?」、「魅力を高めるためにできることは?」と暮らの中で馴染み親しんでいたモノやコトを、みんなで話題にした途端に目の輝きが増した中学生みらい会議。「10年後の○○なまちにしたい!」、「そのために私たちは○○します!」と力強く宣言をする姿を見せてくれた高校生みらい会議。今号では、中学生から出た声とその想いを紹介します。

「毎年やり続け盛り上げる」、「大人になっても祭りを残すために、大人になっても毎年参加します!」

「子どもは獅子舞が得意な未来のまちにしたい」などの具体的な意見がありました。

「地域(まち)の宝ものって何だろう?」、「魅力を高めるためにできることは?」と暮らの中で馴染み親しんでいたモノやコトを、みんなで話題にした途端に目の輝きが増した中学生みらい会議。「10年後の○○なまちにしたい!」、「そのために私たちは○○します!」と力強く宣言をする姿を見せてくれた高校生みらい会議。今号では、中学生から出た声とその想いを紹介します。

あふれる中高生の想い

THE YOSANO FUTURE PRESS



第五号

与謝野みらい新聞
2017年 7月25日 発行
発行所 ・与謝野町役場
編集 ・企画財政課
・総合計画策定委員会
ワーキングチーム

- 1 2 3 4 5 中高生の想い
- 6 あっちこっちみらい会議
- 7 よさの想い人
- 8 職員リレーコラム
4コマ漫画



「古民家の活用」で盛り上がりました。いろんな方に住んでもらえるよう、国内外へ向けたPRという意見にまとまりました。

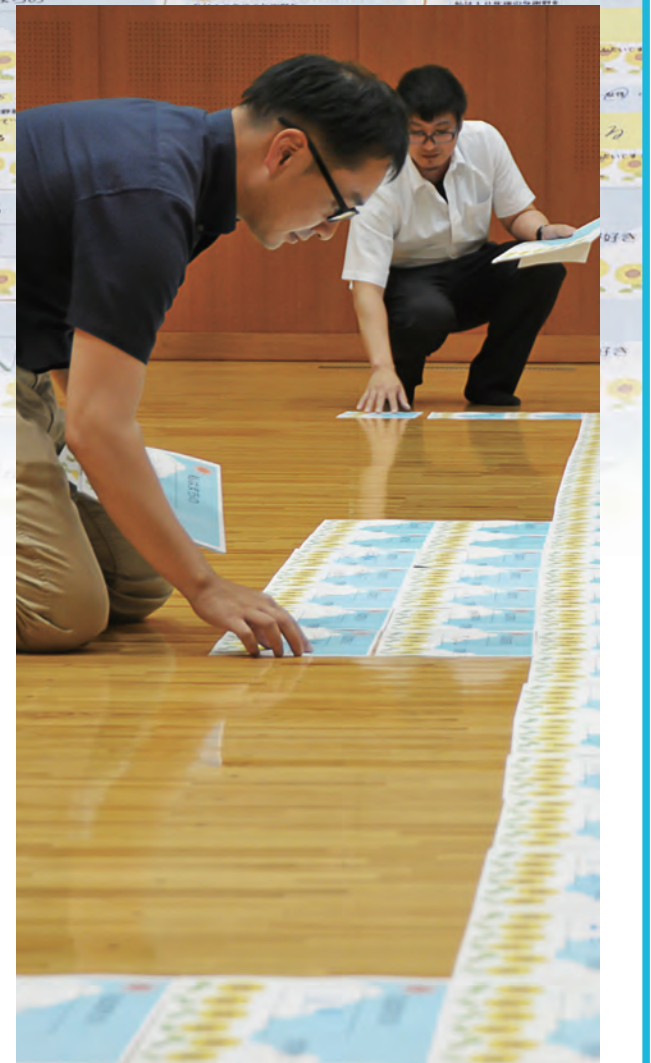
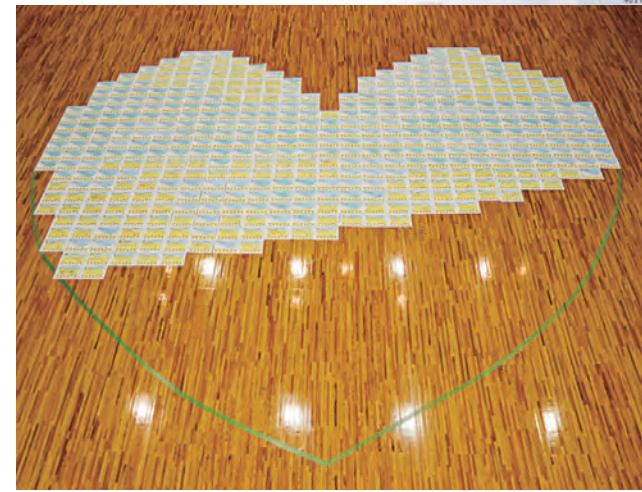
「子どもは獅子舞が得意な未来のまちにしたい」などの具体的な意見がありました。

集めた想いをカタチに

今年の5月以降、公園やまちかどで、インタビューで、中高生みらい会議やあっちこっちみらい会議などで皆さんにご協力頂いているひまわりシート。与謝野町へのたくさんの想い『よさの愛』1枚1枚を並べてハートに形づくってみました。

右の写真は、今まで集めた皆さんの想いの詰まったカードを職員が並べてみました。集まったカードは、438枚でハートの形をつくりにはあと約250枚必要です。いつでもカードのご記入を募っており、皆様からお聞かせいただいた「想い」は、総合計画の策定に活用させていただきます。

皆さんが想うまちの魅力、まちの未来をもっとお聞かせいただき、大きな『よさの愛』を完成させましょう。



与謝野みらい会議

～みんなで描くまちの未来～

日時 8月27日(日) 午後から

場所 野田川わーくばる

内容 住民の皆さんが集い「与謝野の未来」を対話により創造します



第2次与謝野町総合計画の策定に向けて、今年の5月以降、住民の皆さんから与謝野町の魅力(好きなところ)や、未来像(こんなまちにしたい)、そして未来像を実現するためにできること(やりたい、できます)をたくさんお聞かせいただいております。

第2次与謝野町総合計画では、「みえるまちをつくる」「みんなのできる」「みらい志向でつくる」を策定のコンセプトに掲げ取り組みを進めています。2040年という未来を見据えて、まちづくりの主人公である住民の皆さんが、「誰もが分かる、誰もが知っている」まちづくり計画を、役場の職員と一緒に、誰かが知っている「まちづくり計画」に基づき、みんなで描いたまち(地域)をそれぞれの立場で実現していく。そんな「みんな」としての「みえるまち」づくりを進めていきましょう。

「よさの想い人」へのインタビューを初めてしました。しっかりと聞き出せるのかという心配も杞憂に終わり、多くのことを積極的に話していただきました。

住民参画

職員参画 || 総合計画③

総合計画ワーキングメンバーリレーコラム②
藤井 彩(子育て応援課)



「よさの想い人」へのインタビューを初めてしました。しっかりと聞き出せるのかという心配も杞憂に終わり、多くのことを積極的に話していただきました。

6月23日(金)

加悦中学校

―地域の宝ものマップづくり―
3年生の総合学習「安良タイム」の時間の中で、ふるさとの魅力について職員と一緒にグループワークをおこない、明るい未来を考えました。



生徒の皆さんは、10年後のまちを創造すべく、班毎に「地域の宝ものマップ」を作り、自分たち一人ひとりができることへの想いを共有しました。各班がまとめた想いを紹介します。

1組1班(宝もの) 大江山

大江山が賑わうまちになってほしい。そのために、きれいな大江山を維持し、多くの人に登山マラソンに参加してもらいます！

1組2班(宝もの) 美味しい米

美味しい米があるまちになってほしい。そのために、たくさん食べます！

1組3班(宝もの) 丹後のぼら寿司

豆つこ米で作った丹後のぼら寿司が大切にされているまちになってほしい。そのために、まずは自分たちが作り方を受け継ぎ、学んだ伝統を広く伝えます！



1組4班(宝もの) 大江山

大江山に人がたくさん来る町になってほしい。そのために、町の行事の一つとして、大江山の掃除を行います！

1組5班(宝もの) 丹後ちりめん

日本に住んでいる全員が知っている着物のまちになってほしい。そのために、着物を着られるイベントを作り、ちりめんの良さを知ってもらいます！

1組6班(宝もの) お米

お米が有名なまちになってほしい。そのために、貧困国や難民に届けたり、冷凍食品などの商品を開発し、一度食べたらやめられないお米を作ります！



2組1班(宝もの) ホタル

ホタルが飛び交うまちになってほしい。そのために、ポイ捨てをしたり、汚れた水を流さないようにしましょう！

2組2班(宝もの) お米

お米で住民の笑顔がみえるまちになってほしい。そのために、自然を大切にし、お米を作りやすい環境を守り、

自分たちから情報を発信します！

2組3班(宝もの) ちりめん街道

ふるさとが笑顔にあふれるまちになってほしい。そのために、ちりめん街道にアート作品やいろいろな店を作りアート作品を置きます！

2組4班(宝もの) 親水公園

活気があり、かつ笑顔のたえないまちになってほしい。そのために、親水公園をライトアップし、たくさんの人に楽しんでもらえるようにします！

2組5班(宝もの) ちりめん街道

ちりめん街道が大切にされているまちになってほしい。そのために、インターネットなどで宣伝するとともに、掃除をして景観を守ります！

2組6班(宝もの) 丹後ちりめん

丹後ちりめんで栄えるまちになってほしい。そのために、英語や他国の言語を身につけ、後継者不足の解消の一助となるよう努めます！

生徒の皆さんは、素晴らしい想いをそれぞれにまとめられ、66名とともに職員も明るい未来を描けました。



7月4日(火)

橋立中学校

3年生の総合学習「阿蘇タイム」で取り組んでこられた「ふるさと発見」「ふるさと発信」について、各クラスの班ごとにパワーポイントを使って発表されました。

1組5班

イルミネーションによるPR

2組1班

フードランニング

2組2班

音楽イベントも可能な宿泊施設

2組3班

丹後ちりめんを使い知名度UP

2組4班

夜景とグルメイベント

2組5班

アンテナショップの出店

3組1班

水を使ったテーマパークを作る

3組2班

聖地巡礼イベント

3組3班

天の川と天橋立をコラボレーションさせた七夕祭り

3組4班
魚を活かしたグルメエリアの提案
3組5班
観光地ベスト3制覇ツアー

全班が素晴らしい提言をされ、後日行われた各クラスの代表班による発表では、他自治体の先進事例と合わせて、廃校をリフォームして宿泊施設やカフェ、食堂への活用方法のほかに、音楽室はカラオケルーム、図工室で体験イベント、体育館は各種スポーツを楽しむ場として、学校の特徴を踏まえた提言もされました。他に、地場産業の丹後ちりめんの活用と普及として、ちりめんを使ったファッションショー「丹コレ」とちりめんの新商品開発魚を掴み取りしその場で食べるエリアの構築など、予算面による課題を含めた具体的な提言をされました。



橋立中学校の生徒が修学旅行先で実施した探究的な学習は、生徒自身への意識変化を生んだとともに、この地をアピールすることにも繋がっていたと思います。自分と他者による見解の違いは、与謝野と宮津にかかる橋立中学校の生徒だからこそ感じられる感覚で、自分を分け隔てるのではなく、大きな地域として大切にしたいやる気持の育成になって

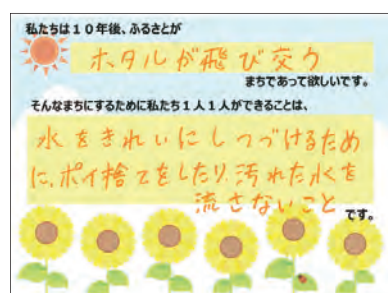
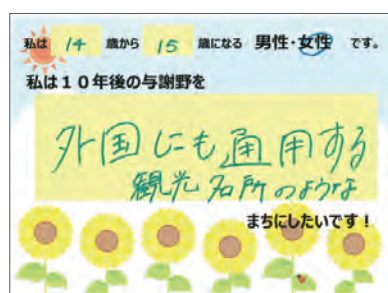
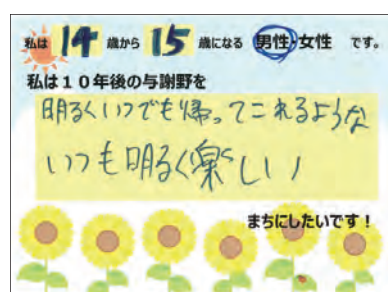
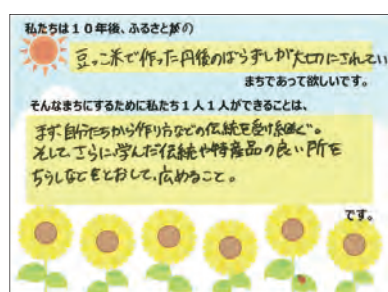
いたのではないのでしょうか。一市一町にまたがる中学校だからこそ生まれたアイデアを、与謝野と宮津の地域の方々に知ってもらうことは、学校教育における「ふるさと」教育が、次世代にも生き続ける学びであるとともに、ふるさとに対する愛情と自覚は次世代の子どもたちにもしっかりと育まれていることが伝わるものだと思います。

- 1組1班 廃校の再利用
- 1組2班 海に浮かぶ「海の家」
- 1組3班 天橋立を望むシンボルタワー建設
- 1組4班 絶景+郷土料理によるPR

- 1組5班 イルミネーションによるPR
- 2組1班 フードランニング
- 2組2班 音楽イベントも可能な宿泊施設
- 2組3班 丹後ちりめんを使い知名度UP
- 2組4班 夜景とグルメイベント
- 2組5班 アンテナショップの出店
- 3組1班 水を使ったテーマパークを作る
- 3組2班 聖地巡礼イベント
- 3組3班 天の川と天橋立をコラボレーションさせた七夕祭り



江陽中学校



加悦中学校

紹介 郷土愛を感じる 中高生の想い

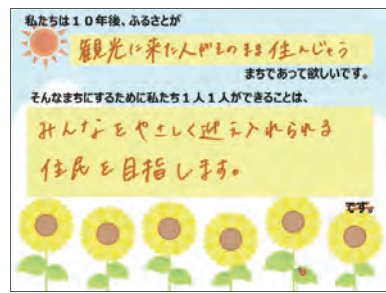
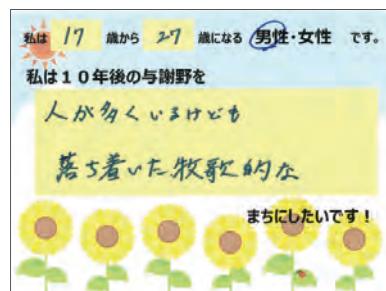
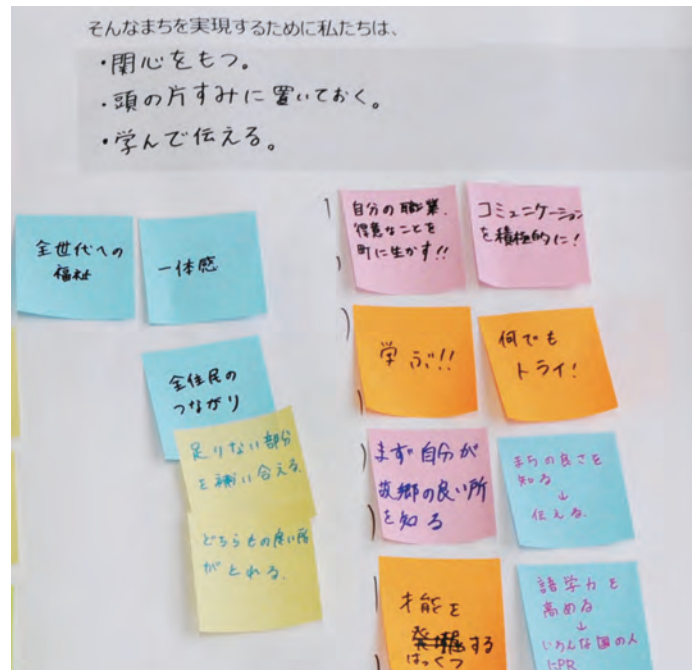
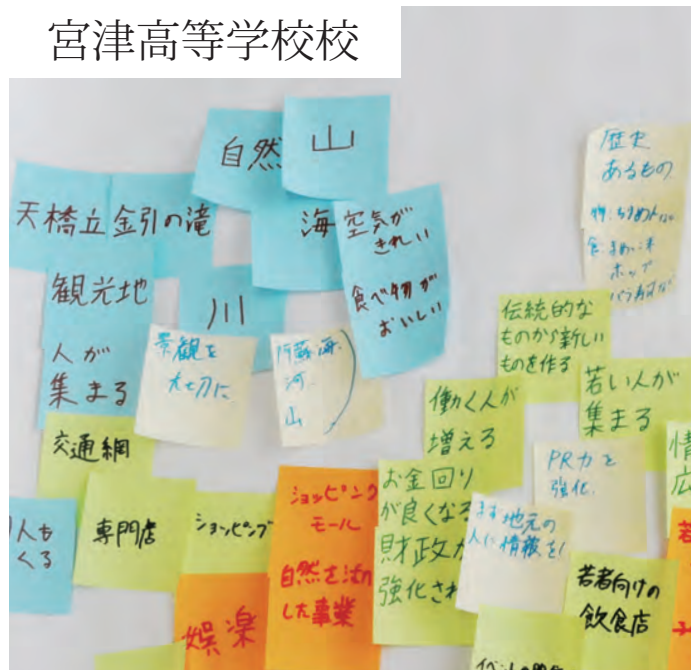
私たちの未来像を描き、自分たちが発見した地域の魅力を未来に残すために、自分たちができることは何か。中学生一人ひとりの声や想いは、持続可能なまちを目指す与謝野町にとつて、尊くそして力強いメッセージであると共に、未来を担う大きな力です。今回の中高生の想いを含め、子どもから大人まで、皆さんの声と想いを大切に、第2次与謝野町総合計画策定に取り組んでまいります。

誰しも、「宝もの」や「魅力」と聞くとき有名なものを思い浮かべてしまうものです。そのため、「地域の宝ものをたくさん探してみましよう、と投げかけた時、生徒の皆さんの中に考え込む姿が見えたことは当然のことかと想います。

事前学習やグループワークでは、誰もが知っている地域の宝ものほもちろんですが、「あなたの身近にある宝ものとは」、「あなたにとつてかけがえない大切なものとは」などの視点についても生徒の皆さんが意識を持っていただけるよう心がけました。



橋立中学校



▼自然を守り活気あふれるまちにするために、ボランティアに参加し宮津高校を有名にします。
▼自他ともに認めるPRポイントがあるまちにするために、関心を持つ、頭の片隅に置いておく、学んで伝えます。

これまで宮津高校では「OB特別対談 与謝野町と語ろう」と題し町長との対話授業を実施していました。今回は、第2次与謝野町総合計画の策定にあたり、今回はまちのみらいを担う高校生の想いを集めることを目的に、10年後のまちを創造する内容で「高校生みらい会議in宮津高等学校」として開催しました。

伝統行事が盛んで活発なまち

下山田在住の男子生徒は「地域の祭りに参加する同世代が少ない。自分は祭りが好き。祭りなどの伝統行事に多くの人が参加し賑わってほしい」と語ってくれました。

その他に「みんなが主役」のまち「多くの人が自然を愛せるまち」「自然や歴史をPRして観光客の多いまち」など、人・自然を魅力に感じ、その魅力をPRしていくという声も多くあり、グループワークでも中心的な話題となっていました。

未来像の実現のために自分たちができること



1年生から3年生までの22名の生徒の皆さんが参加し、与謝野町長と一緒に地域の未来像を描き、実現するために自分たちができることは何かを話し合いました。高校生だからこその言葉や素直な意見が飛び交う中で、特に「観光・交流・PR」などにより地域に人を呼び込む重要性を投げかける意見が多くみられました。

6月23日(金) 宮津高等学校



町長から高校生へメッセージ

「町政は私たちのもの」であるという意識の中でこれからも町政へ、この地域へ参画していただきたい。皆さんがこれからの人生で自分らしさを保ちながら豊かに生きていけることを切に願い、いつか自律的にこの地域に関わって頂く、そしていつか一緒に何かできればよいと思います。

加悦谷高等学校でのみらい会議の様子は、7月19日(水)開催のため、次号で掲載予定としています。

▼観光に来た人がそのまま住んじやうまちにするために、みんなを優しく迎え入れられる住民を目指します。
▼地域の交流が深く、きれいな自然と便利さが共存する住みよいまちにするために、地域の行事をSNSなどで発信します。

みらい会議に参加した高校生の感想には、「ふるさとやその魅力を改めて考える機会となった」、「このグループワークから何かを得られ、自分に何ができるのか、その先のことを考えることが大切であると感じた」、「地元に対してネガティブ思考の人には、もっとふるさとに自信をもって、地元に関心を持つて欲しいと思った」、「小さなことからでも、自分ができることから行動し、周囲にまちを良くする意識や活動が広がってほしいと思った」などがあり、若いながらもふるさとを大切に想う気持ちが感じられました。



あっちこっちみらい会議 in 雲岩創成塾

地域やまちの「みらい」を語ろう

IWAYA若もん × 京都府若手職員 × 役場職員

6月14日(水) 岩屋区の若もん、京都府若手職員、役場若手職員が岩屋地区公民館に集まり、一緒に地域やまちの未来像を描き、自分たちができることをまとめるワークショップを開催しました。

ココ(岩屋)での常識 × ヨソ(都会)から見た地域の魅力と可能性 × マチ(与謝野町)の想い = 出会いによる新たな発見



人交密度の高まった各グループ、それぞれがまとめた「①10年後の与謝野の未来像」、「②そんなまちを実現するために自分たちができること」は、たくさんのココ(岩屋)やマチ(与謝野町)の未来像につながりました。その一部をご紹介します。

Aグループ
①アピール上手なまち
②敵を知り己を知る

自分たち自身が地域の魅力を知ること、他の地域との違いを知ること、外からの視点で魅力を教えてもらうことが必要。

Bグループ
①健康な住民さんがたくさんいるまち
②あいさつをする

あいさつから始まる健康づくりを。自分が健康であること、ウォーキングや山歩き、子どもと外で遊ぶなど。

Cグループ
①子どもが地元を愛着を持てるまち
②大人が地元を楽しみ子どもと向き合う

大人が地域のことを知り、関わることで誇りを持つ。その大人の姿勢が子どもに伝わる。地域について子どもとの会話や遊びを通じて教えることが重要。

Dグループ
①みんなが主役、元気なまち
②自分が主役、元気になる

みんなが活躍できる、元気である、子どもたちの笑顔があふれる、地域住民の顔が見えるには、地域の人とふれあうなど、自分自身が主役となり「元気であること」。

Eグループ
①若者が移住・定住したくなるまち
②若者向けのイベントを開催する

空き家がないまち、年齢に関係なく和気あいあいとできるまち、若者が増えるまちのために自分たちができることは若者向けのイベントを開催すること。

町民、府職員、町職員と立場の違う者が交わることによって、「小さいコト(地区)からでも大きなモノ(町)に変化を生みださせる」、そんな化学反応とも言えるような「可能性」を生む会議となりました。



よさの想い人

～住まう・想いを寄せる～

伝統をつなぐ・地域をつなぐ・元気をつなぐ・若者につなぐ

「与謝野町に住まう人」「与謝野町に想いを寄せる人」から、ライフワークを通じた「ふるさとへ、つなぐ想い」を語っていただきました。その一部をご紹介します。

浴衣を「着物好き」の足掛かりに

赤松 はるみさん(幾地在住)

Q 丹後へ来られたきっかけは?

A 結婚を機に宮城県より来ました。この者に早くなれるように最初に言葉を決めました。嫁いだ次の日には機場に入り、さまざまな物を織り、夜は着付け教室に通いました。



Q 着付けの先生をされていて想われていることは?

A 幼少期から着物が好きで、お正月やお祭りなどの時には着物を着ていました。この地はちりめんを製織するけれど、「誰か」が着るといふ地域です。丹後ちりめん衰退抑制にと、浴衣を使って「着物好き」の足掛かりになればと京丹後市の中学校で和装教育を3年間実施しました。ちりめんに対して取り組みも、いろいろあると思います。桑畑の話聞いたときは、次の世代に繋ぐよう、一過性のものでなく本気で取り組んでほしいと思います。

花でつながる地域と人

山添 徳子さん(弓木在住)

Q バラ園のきっかけは?

A 娘から貰った鉢のバラを枯らさないために、バラの栽培について学び、そこで出会った仲間と「丹後バラ会」を結成したのは始まりです。今ではバラを見に、いろいろな方が立ち寄ってくださり、バラを見た皆さんの笑顔を見てみると、自分も元気になります。

Q 今後の展開については?

A 気軽に来ていただけるように、日付を決めてオープンガーデンができればと思っています。長く続けられるように無理なく自分流に楽しみ、花が本当に好きな人とバラを通じて「つながり」を楽しめたらと考えています。

呼吸が変わる、元気な体と前向きな心

水口 礼子さん(石川在住)

Q ヨーガを始めたきっかけは?

A 肩こりがひどく改善のため教室に通い始め、ヨーガが体にいいと実感し、資格を取得して教室を開きました。

Q ヨーガへの想いをお聞かせください

A ヨーガは体と心の両面をケアできるもので、無意識にしている呼吸を大切に。体がリラックスし、こころが落ち着きます。呼吸ひとつでも意識次第で人生が変わります。

Q 町へ期待することは?

A 元気になってほしいですね。町への期待などとは違いますが、「他人に期待せず自分でやる」ことが大事だと思います。自分にできることを一生懸命すれば、一人でも多くの人の意識に働きかけ、それが繋がることで大きな変化に会えるかなと考えています。

なんでも「ぶっしや」と前向きに

泉谷 順子さん(東町在住)

Q 順乃風をされて思われることは?

A 近所のおばちゃんだからこそ頼ってもらえる存在になれたら良いと思っています。子どもたち一人ひとりと話をすることで「叱るではなく、褒める」身近な存在でいたいんです。地域のみんなが「お節介なおっちゃん、おばちゃん」になり、子どもたちを見守り関わることが大事だと思います。



ん」になり、子どもたちを見守り関わることが大事だと思います。

Q 「がんばれ〇〇」などの特徴的な筆文字は昔から?

A 以前から「書くこと」が楽しいと思って書いていました。お店などに貼り始めたきっかけは東日本大震災からです。「がんばろう」ではなくて「がんばれ」。頑張っている人に「頑張れ」ということに賛否両論はありますが、それでも頑張らないと前進できないと思っています。役場、学校、隣組などがひとつのチームになれたら、今よりも良い町になるのではないかと思います。

「いざ与謝野!」という気持ち大切に

片木 孝治さん(京都Xキャンブ総合ディレクター)

Q 京都Xキャンブの活動について教えてください

A 今年で6年目となるこの活動は「大学の授業ではない」大学や学部専攻も様々(XX)な有志学生が主体となり、地域に長期滞在(XXキャンブ)しながら、学生それぞれの専門分野を活かし、地域の方と一緒に地域資産や資源を紐解いていく取組をしています。学生は年に70日間も与謝野を訪れます。



す。1日に1万人を集めるイベントを企画するのではなく、同じ1万人を集めるなら、100人が100日訪れたくなる魅力のある「継続性」を大切にしています。

Q 与謝野町の魅力とは?

A 学生を受け入れて頂いている方々を見て愛護会など、子どもたちに対する教育や愛情が強い地域だと思います。それから、一つの町に海と山があり、野田川水系の中で完結している環境は素晴らしい、お米のおいしさも、そこから来ているのかもしれないね。

Q 与謝野町のこれからの期待は?

A 若者が「活躍したくなる」マチになって欲しいと思います。知恵や経験が若者へ受け継がれつつ、チャレンジできるマチ。これが持続可能なマチとしてあり続けられる方法だと思っています。地域のアイデンティティーを大切にすることが未来へのまちづくりではないかと思っています。